

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、緩やかに持ち直している。

すなわち、公共投資は、減少している。設備投資は、緩やかに増加している。住宅投資は、緩やかに減少している。個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに持ち直している。生産は、持ち直している。雇用情勢をみると、労働需給は引き締まっている。

先行きについては、国内外の需要動向や各種コストの動向などを注視していく必要がある。

2. 最終需要の動向

公共投資は、減少している。

1月の公共工事請負金額は、前年を下回った。

設備投資は、緩やかに増加している。

主要企業の18年度設備投資計画をみると、生産能力や事業の拡大を目指した投資を主因に前年を上回る計画となっている。この間、農業関連などでは、引き続き新規投資がみられる。

12月の建築物着工床面積（非居住用）は、前年を大幅に上回った。

住宅投資は、緩やかに減少している。

12月の新設住宅着工戸数は、貸家が前年を下回った一方、持家が前年を上回り、全体でも前年を上回った。

個人消費は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに持ち直している。

12月の主要小売店の売上高は、前年を下回った。

耐久消費財をみると、自動車販売（乗用車新車登録届出台数、1月）は、普通・小型車、軽乗用車ともに前年を上回り、全体でも4か月連続で前年を上回った。12月の家電販売は、買い替え需要が続く白物家電やテレビの売れ行きが堅調で

あった。

旅行・観光関連をみると、12月の主要温泉地の宿泊人数は、観光客の入り込み増加から前年を上回ったほか、12月の市内ホテルの宿泊人数も、堅調なビジネス利用などを背景に前年を上回った。また、12月のとちぎ帯広空港の乗降客数も、前年を上回った。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

生産は、持ち直している。

12月の生乳生産量は、3か月連続で前年を上回ったほか、12月の産糖量も、前年並みとなった。

一方、12月の乳製品生産量および製材品生産量は、前年を下回った。

雇用情勢をみると、労働需給は引き締まっている。

12月の有効求人倍率（常用）は、10か月連続で前年を上回った。

企業倒産は、概ね落ち着いた動きを示している。

1月の企業倒産（負債額10百万円以上）は、倒産件数、負債総額ともに前年を上回った。

4. 金融情勢

帯広市内金融機関の実質預金残高（12月末）は、流動性預金を中心に増加している。

貸出残高（12月末）は、前年を上回った。

貸出約定平均金利（12月末、総合）は、銀行、信金ともに前月を下回った。

以 上